

## 守口市生涯学習情報センター指定管理者制度 第三者的総合評価

評価対象施設	守口市生涯学習情報センター
指定管理者名	公益財団法人 守口市文化振興事業団
評価対象年度	平成26・27年度
施設所管課名	市民生活部 生涯学習課
評価者氏名	守口市生涯学習情報センター指定管理者選定委員会 委員長 朝倉 洋

## 1 指定管理者による自己評価に対する意見等

自己評価結果様式について、2施設一括での表記になっており見づらく、今後は個別表記し第三者にも理解してもらえるような資料作りに改めるべきである。図書サービスや自主事業を積極的に展開し、黒字決算まで回復させたことについて経営努力の跡はうかがえる。図書フロアにおいては、標本数が少ないがアンケートによる満足度は高く評価できる。今後も自主的に職員の研修を継続して行なう等、サービスの向上と職員の専門的スキルの研鑽に努められたい。

特に、様々な意見を聴く手段であるアンケートについては、日常的に実施しているものとモニタリング用に実施しているものも含め、ただ漫然と実施するのではなく、再度アンケートそのものの目的や意義を見直した上で施設の用途等に応じた質問の設定を行ない、得られた回答を分析して次へ活かす必要がある。そのためには十分な数の調査等を行ない、結果については年度途中からでも即時にフィードバックするよう努められたい。

事業及び施設利用を含めて、今後は参加者数・利用率の目標値や計画を当初にしっかりと定めて増減の動向について、どう改善していくかというビジョンを持って運営に取り組まれたい。

## 2 市（施設所管課）による内部評価に対する意見等

事業展開や収支決算に関しては、指定管理者の取り組みや姿勢を適正に評価している。

しかしながら、施設利用者へのアンケート調査については施設全体にしたものの内容・実施方法等の工夫が必要である。施設所管課から指定管理者へ改めて周知指導されたい。

また、施設の老朽化の問題から大規模な設備等の補修・改良工事等については、市の財政的な問題もあるが、指定管理者と協議や調整を重ねて計画的に実施されたい。その際には、十分に利用者へのサービスを考慮されたい。

## 3 改善すべき課題等

守口文化センター同様にアンケートは十分な標本数を確保すべきである。実施方法については、既存の紙ベース集計だけではなく、ウェブ上でも回答できるよう意欲的に情報収集する工夫が求められる。図書の統計資料や得られた情報（「アンケートの集約結果」「要望に対する対応策」等）をホームページで発信提供することで、利用者により密接な関係性の構築が可能となり、リピーターの確保へと繋げるべきである。また、図書で実施している両施設間の相互利用を更に進め、積極的に他分野でも職員交流や連携を行ない事業展開や施設管理の問題点の提起・共有等に努められたい。

仕様書の内容や業務履行にとどまることなく、民間ならではの柔軟な事業手法を活かした展開を行なうよう、指定管理者自らの努力姿勢を示した上で業務に取り組まれたい。特に、周辺施設との競争が激化することが予想され、今後は市生涯学習情報センターとしての「個性」の確立が求められるため、守口文化センターとの魅力・特徴の分化を図る等、より一層の利用者獲得の努力が必要とされる。

結びとして、当該施設の位置する大日駅前周辺は交通拠点であり、且つ、複数の電鉄会社や大規模商業施設・居住施設が集積するエリアのため、これらの企業や地域住民との協働で事業展開を行なう等、好環境を活かした大日都市核の魅力向上の一翼となるよう努められたい。